

行政評価(施策評価シート)

1 基本項目

基本目標4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち
基本施策2	自然と調和した安全で快適な都市の形成
施策32	上水道
基本方針	安全でおいしい水を安定供給できるよう、水道施設の適切な維持管理及び水質管理に万全を期すとともに、事業の健全経営に努めます。

2 指標(長期総合計画目標指標)

指標名		現状		H24実績	H25実績	H26実績	H27実績	H28実績	目標値 (平成28年度)
指標1	管路耐震適合率	15.80%	(平成22年度)	17.10%	17.70%	18.60%			20.00%
指標2	水道料金の収納率(現年度分)	99.22%	(平成22年度)	99.36%	99.27%	99.43%			99.30%

3 施策を構成する事務事業の実施・評価結果

No	事業名	平成26年度実施結果			評価(所管課長)				指標に係る 重点事務事業
		決算/円	執行率	進捗状況	妥当性	効率性	有効性	方向性	
1	配水管の耐震化	137,662,848	100.0%	計画どおり完了	○	○	○	A	*
2	危機管理体制の強化	-	-	計画どおり完了	○	○	○	A	
3	施設の計画的な更新・改修	83,920,066	87.6%	計画どおり完了	○	○	○	A	
4	水道料金の適正化	-	-	計画どおり完了	○	○	○	A	
5	徴収業務の委託化	61,085,404	100.0%	計画どおり完了	○	○	○	A	*
6	管路図の電子化	-	-	計画どおり完了	○	○	○	A	

4 施策評価

① 施策の評価

市民生活や企業活動に不可欠である水道水の安定供給のため、配水管の耐震化、危機管理体制の強化、水道施設の改修等の施設の整備、維持管理を行うことができた。指標1の管路耐震適合率については管路の管種替工事を確実に実施し増加している。

水道事業の運営に関しては、水道料金の改定を行い、安全で安定した水道水の供給を行うための一定の財源を確保することができ、健全な事業の運営を行うことができた。また、徴収業務全般に民間事業者のノウハウを活用し、業務の効率化及び市民サービスの向上を図ったことから、指標2の水道料金の収納率(現年度分)は目標を達成している。

② 今後の方向性(改善への取組み等)

施設整備と維持管理については、引き続き耐震性に優れたダクタイル鋳鉄管に管種替えし、管路の耐震化を促進していく。

水道事業の運営に関しては、今後も事業費の抑制に取り組み、定期的に水道料金の適正化について検証していく。

平成26年度【基本シート】

1.基本項目		作成部署	水道事務所		水道課	
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
1	配水管の耐震化	不明 年	継続	自治事務(市独自)	直営	○
	01	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課						
基本目標	4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	32	上水道	事業番号 1

2.事業の概要

事業内容	既設の硬質塩化ビニール管を耐震性の高いダクタイル鋳鉄管へ管種替えを行い、管路の耐震化を図る。					
根拠法令	水道法					
条例	羽村市給水条例					
要綱等						

3.成果指標

成果目標	管種替えを行い、水道水を安定的に供給する。					
------	-----------------------	--	--	--	--	--

4.活動指標

Plan【計画】	平成25年度(現況)	3か年計画		
		平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業内容 事業量等	配水管の管種替 1,220m 管路耐震適合率 17.5%	配水管の管種替 1,585m 管路耐震適合率 18.3%	配水管の管種替 1,495m 管路耐震適合率 19.1%	配水管の管種替 1,515m 管路耐震適合率 20.0% 管路耐震化更新計画の策定

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	0人	0H	0人	0H	0人	0H	0人	0H
主事・主任職	2人	838H	2人	977H	2人	977H	2人	977H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	99,534	147,456	148,225	157,905
人件費(係長職)	0	0	0	0
人件費(主任・主事職)	6,167	7,088	7,088	7,088
総事業費(合計)	105,701	154,544	155,313	164,993
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	105,701	154,544	155,313	164,993
財源内訳(合計)	105,701	154,544	155,313	164,993

③コスト計算

ア 市民	56,732	人における1人あたりのコストは、	2,724	円
イ 対象者	56,622	人における1人あたりのコストは、	2,729	円
ウ 成果物		の 出来高		円

※対象者 給水区域内人口

Do【実行】 【進行管理】

6.実施結果(活動指標と投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか

※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

当該事業は、平成22年度に策定した「羽村市水道ビジョン」の基本目標として、既存の硬質塩化ビニール管を耐震性に優れているダクタイル鋳鉄管に管種替えを行い、管路の耐震化を図るものである。平成26年度は、管種替工事4件、1582.4mと新規布設工事3件、249.3mを実施した。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	147,456,000	▲ 9,793,000	137,663,000	137,662,848	100.0%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
平成25年度実績 配水管の管種替 1227m 耐震適合率 17.7%	平成26年度実績 配水管の管種替 1582.4m 耐震適合率 18.6%

②成果指標(目標値)を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
配水管の管種替	管種替 1,585m 新設 280m	管種替 1,582.4m 新設 249.3m
耐震適合率	18.6%	18.6%

Check【評価】

◎…適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

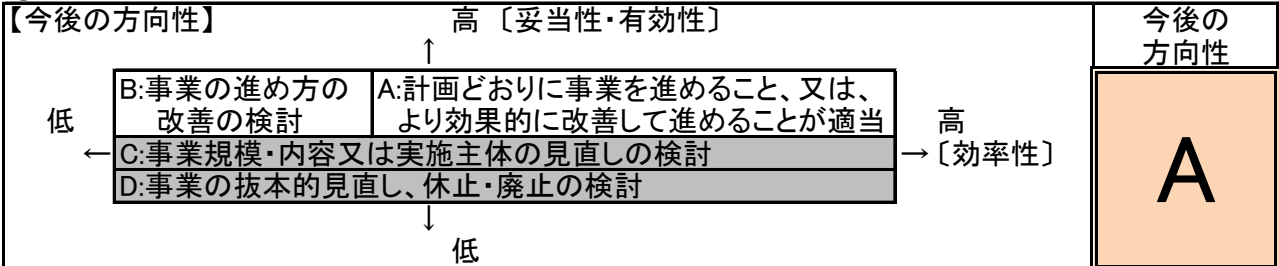
○…適切なもの

8.評価

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)



③事務事業から導かれる今後の方向性と課題

評価(所管課長)
配水管の耐震化については大地震への備えとして取り組むべき課題であり、老朽化が進む水道管路の整備は全国的な問題となっている。
今後は、水道管を繋ぐための継手(つぎて)部分は耐震性に優れた継手を検討し、引き続き配水管の耐震化を推進していく。

平成26年度【基本シート】

1.基本項目		作成部署	水道事務所		水道課	
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
2	危機管理体制の強化	不明 年	継続	自治事務(市独自)	直営	
	01	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課						
基本目標	4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	32	上水道	事業番号 3

2.事業の概要

事業内容	水安全計画の策定及び監視カメラの設置により、危機管理体制の強化を図る。
根拠法令	
条例	
要綱等	厚生労働省「水安全計画策定ガイドライン」平成20年度

3.成果指標

成果目標	水源から給水栓に至る統合的な水質管理を実現し、監視カメラの設置により危機管理体制の強化を図る。
------	---

4.活動指標

Plan【計画】	平成25年度(現況)	3か年計画		
		平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業内容 事業量等	水安全計画の策定	水安全計画の運用	水安全計画の運用	水安全計画の運用

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	16H	1人	2H	1人	6H	1人	6H
主事・主任職	2人	32H	2人	4H	2人	12H	2人	12H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	0	0	0	0
人件費(係長職)	82	11	31	31
人件費(主任・主事職)	236	30	88	88
総事業費(合計)	318	41	119	119
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	318	41	119	119
財源内訳(合計)	318	41	119	119

③コスト計算

ア 市民	56,732	人における1人あたりのコストは、	<input type="text" value=""/>	円
イ 対象者	56,622	人における1人あたりのコストは、	<input type="text" value=""/>	円
ウ 成果物		の出来高 <input type="text" value=""/>		円

※対象者 給水区域内人口

Do【実行】 【進行管理】

6.実施結果(活動指標と投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか

※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

平成25年度の策定した「羽村市水安全計画」で抽出された危害要因を監視を行い、安全・安定した水道水の給水を図った。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	0	0	0	0	-

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
「羽村市水安全計画」策定のため、水道システムの危害要因の抽出・分析を行い、監視地点や管理措置を整理し、「羽村市水安全計画」を策定した。	危害要因に対する監視を実施した。 平成27年3月に、水道課内の職員で構成する羽村市水安全計画検証会議を開催し、平成26年4月から平成27年1月までの現場報告を基に検証を行ったところ、いずれも給水にあたり問題はなかった。

②成果指標(目標値)を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check【評価】

8.評価

◎…適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○…適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		今後の方向性
高 [妥当性・有効性]		A
↑	高	
低 ←	→ [効率性]	
↓		

B:事業の進め方の改善の検討 A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当

C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討

③事務事業から導かれる今後の方向性と課題

評価(所管課長)
平成25年度に策定した「羽村市水安全計画」は、原則毎年1回、検証を行い問題点や課題が発生した場合は、計画の見直しを行うこととなっており、平成26年度は検証を行ったが、結果としては変更すべき点はない状況である。今後も、適宜検証を行いながら、水道事業を実施していく。

平成26年度【基本シート】

1.基本項目

事業名	作成部署	水道事務所		水道課	
	開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
3 施設の計画的な更新・改修	不明	年 継続	自治事務(市独自)	直営	
01		年			
02		年			
03		年			
04		年			
05		年			
関連課					
基本目標 4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	32	上水道	事業番号 4

2.事業の概要

事業内容 膜ろ過施設の膜エレメント交換等、既設施設の適切な維持管理を行う。

根拠法令 水道法

条例 羽村市給水条例

要綱等

3.成果指標

成果目標 計画的に施設整備（更新・維持管理・修繕）を行うことで、施設の機能維持、延命化を図るとともに、将来にわたり、安全な水道水の安定供給を図る。

4.活動指標

Plan【計画】	平成25年度(現況)	3か年計画		
		平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業内容 事業量等	取水、浄水施設ポンプ分解修繕等 浄水場消毒設備取替工事等 配水施設緊急遮断弁バッテリー取替工事 膜ろ過施設エレメント修繕	取水、浄水施設ポンプ分解修繕等 水質検査機器取替 配水施設耐震診断	浄水施設ポンプ分解修繕等 水質検査機器取替 末端配水モニター設置工事 浄水池内面防水改修工事	取水施設ポンプ分解修繕 配水、取水施設水位計取替工事 膜ろ過施設エレメント修繕等

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	0人	0H	0人	0H	0人	0H	0人	0H
主事・主任職	5人	388H	5人	388H	5人	388H	5人	388H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	119,739	95,826	156,497	101,686
人件費(係長職)	0	0	0	0
人件費(主任・主事職)	7,138	7,037	7,037	7,037
総事業費(合計)	126,877	102,863	163,534	108,723
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	126,877	102,863	163,534	108,723
財源内訳(合計)	126,877	102,863	163,534	108,723

③コスト計算

ア 市民 56,732 人における1人あたりのコストは、 1,813 円
 イ 対象者 56,622 人における1人あたりのコストは、 1,817 円
 ウ 成果物 の 出来高 のコストは 円

※対象者 給水区域内人口

Do【実行】 【進行管理】

6.実施結果(活動指標と投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか

※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

膜ろ過施設の設備や配水施設の計装施設、非常用発電機の点検及び保守を行い、設備の機能維持を図った。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	95,826,000	0	95,826,000	83,920,066	87.6%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
膜ろ過設備や計装機器の点検及び保守を実施した。また、浄水場の消毒設備の取替工事を実施した。	膜ろ過設備や計装機器の点検及び保守の他に、水質検査機器の更新、次年度以降実施する浄水池内面防水と水質自動監視装置の設計委託を実施した。

②成果指標(目標値)を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check【評価】

8.評価

◎…適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○…適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		今後の方向性
高 [妥当性・有効性]		A
↑	高	
低	← [効率性] →	
↓		
低	高	低

B:事業の進め方の改善の検討 A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当

C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討

③事務事業から導かれる今後の方向性と課題

評価(所管課長)

水道水を安定供給するために日頃の点検や計画的な更新・改修は必要なことであり、平成26年度においても小規模な修繕では材料や部品を購入し職員が修理することで経費節減に努めている。特に膜ろ過施設については、常時遠隔監視によるモニタリングに加え、職員による毎週1回の点検を実施し、万全の体制で水道水を供給しているところである。今後も安定給水のために計画的な更新・改修を進めていく。

平成26年度【基本シート】

1.基本項目		作成部署	水道事務所		水道課	
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
4	水道料金の適正化	不明 年	継続	自治事務	直営	
	01	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課						
基本目標 4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	32	上水道	事業番号	5

2.事業の概要

事業内容	平成26年4月に実施した料金改定の結果を受け、引き続き検証を行う。					
根拠法令	水道法					
条例	羽村市給水条例					
要綱等						

3.成果指標

成果目標	水道施設の更新、耐震化需要に対応するとともに、健全な事業運営を目指す。					
------	-------------------------------------	--	--	--	--	--

4.活動指標

Plan【計画】	平成25年度(現況)	3か年計画		
		平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業内容 事業量等	使用料等審議会への付議 例規の改正	水道料金の適正化	水道料金の適正化の検証	水道料金の適正化の検証

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	1,100 H	1人	580 H	1人	580 H	1人	580 H
主事・主任職	1人	1,040 H	1人	520 H	1人	520 H	1人	520 H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	0	0	0	0
人件費(係長職)	5,605	2,906	2,906	2,906
人件費(主任・主事職)	3,827	1,887	1,887	1,887
総事業費(合計)	9,432	4,793	4,793	4,793
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	9,432	4,793	4,793	4,793
財源内訳(合計)	9,432	4,793	4,793	4,793

③コスト計算

ア 市民	56,732	人における1人あたりのコストは、	84	円
イ 対象者	56,622	人における1人あたりのコストは、	85	円
ウ 成果物		の 出来高		円

※対象者 給水区域内人口

Do【実行】 【進行管理】

6.実施結果(活動指標と投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか

※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

平成26年度は、料金改定により給水収益の増収を図るとともに、経常的な業務委託の仕様見直しによる経費の圧縮等により、一定の財源を確保することができた。

また、減少傾向にある配水量の推移と水道施設の更新及び耐震化費用等を踏まえた財政推計を作成し、これに基づく新年度予算の編成を行った。

なお、平成26年度の給水収益は前年度比14.3%増の936,819千円(税抜)となり、純利益は前年度比736.8%増の159,547千円となった。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	0	0	0	0	-

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
平成14年4月の料金改定以降、水道料金は据え置きとなっていたが、水需要が減少する中で水道施設の更新、耐震化を計画的に実施するため水道料金の見直しが必要となり、条例改正を行った。	平成26年4月に平均改定率21.33%の料金改定を行った。 成果については、水道施設の更新や管路の耐震化などを計画的に実施し、安全で安定した水道水の供給を行うための一定の財源を確保することができた。

②成果指標(目標値)を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check【評価】

8.評価

◎…適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○…適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		今後の方向性
高 [妥当性・有効性]		A
↑	高	
低	← [効率性] →	
低		

B:事業の進め方の改善の検討 A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当

C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討

③事務事業から導かれる今後の方向性と課題

評価(所管課長)
水道使用水量の減少傾向が続く中で平成26年4月に水道料金を改定し、一定の財源を確保することができた。平成26年度は、料金改定後の水道使用者の意見や問合せなどに対し真摯な態度で対応をし、また、羽村市公式サイトにおいて水道事業の現状などを広報してきたところである。今後も水道事業の効率化に努め、最小の経費で安全でおいしい水道水を供給していくために、水道料金の適正化の検証を継続して行っていくこととする。

平成26年度【基本シート】

1.基本項目		作成部署	水道事務所		水道課	
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
5 徴収業務の委託化		平成 19 年	継続	自治事務(市独自)	業務委託(全部)	
01		年				
02		年				
03		年				
04		年				
05		年				
関連課						
基本目標 4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	32	上水道	事業番号	6

2.事業の概要

事業内容	受付窓口、検針、調定、収納、滞納整理等の業務を民間事業者にて委託する。					
根拠法令	水道法					
条例	羽村市給水条例					
要綱等						

3.成果指標

成果目標	委託業務を継続し、一層の市民サービス向上と事務の効率化を図る。					
------	---------------------------------	--	--	--	--	--

4.活動指標

Plan【計画】	平成25年度(現況)	3か年計画		
		平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業内容 事業量等	民間事業者を活用した業務運営 料金収納率99.27%	民間事業者を活用した業務運営 料金収納率99.28%	民間事業者を活用した業務運営 料金収納率99.29%	民間事業者を活用した業務運営 料金収納率99.30% 契約更新

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	116 H	1人	116 H	1人	116 H	1人	176 H
主事・主任職	2人	232 H	2人	232 H	2人	232 H	2人	232 H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	59,389	61,086	61,086	69,086
人件費(係長職)	592	582	582	882
人件費(主任・主事職)	1,708	1,683	1,683	1,683
総事業費(合計)	61,689	63,351	63,351	71,651
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	61,689	63,351	63,351	71,651
財源内訳(合計)	61,689	63,351	63,351	71,651

③コスト計算

ア 市民	56,732	人における1人あたりのコストは、	1,117	円
イ 対象者	56,622	人における1人あたりのコストは、	1,119	円
ウ 成果物		の 出来高		円

※対象者 給水区域内人口

Do【実行】 【進行管理】

6.実施結果(活動指標と投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか

※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

本事業の目標である料金収納率達成のため、委託業者が新たな取り組みとして未納者への電話催告等を実施したことにより、目標値を達成した。

また、平成26年度は、週一回の水道課職員と委託業者による業務打合せ会と月一回の定例会を実施し、目標の達成状況の報告、問題案件の確認及び事業の進捗状況等の報告、調整を行い、市と委託業者間で情報共有や進捗状況の相互確認を行った。

その他、委託業者の行う事務内容をマニュアル化し、事務の効率化を図った。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	61,086,000	0	61,086,000	61,085,404	100.0%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
業務委託による、民間業者ならではの経験や手法等の活用は、料金収納率の目標達成だけでなく、市民サービスの向上に繋がっている。	継続的な事業運営だけでなく、未納者への電話催告等、新たな取組みを積極的に実施し、目標達成に繋げることができた。

②成果指標(目標値)を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
料金収納率	99.28%	⇒ 99.43%

Check【評価】

8.評価

◎…適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○…適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		今後の方向性					
高 [妥当性・有効性]		A					
↑	高						
↓	低						
←	→ [効率性]						
低	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">B:事業の進め方の改善の検討</td> <td style="width: 50%;">A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当</td> </tr> <tr> <td colspan="2">C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討</td> </tr> <tr> <td colspan="2">D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討</td> </tr> </table>	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討		D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当						
C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討							
D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討							

③事務事業から導かれる今後の方向性と課題

評価(所管課長)
徴収業務の委託化は平成19年度から開始し8年目となるが、料金収納率も本年度目標値に対し、プラス0.15ポイントとなり、水道料金徴収の努力が伺える結果となった。また、水道利用者からの問合せに真摯な態度で対応し、問合せの内容に応じて適宜職員と連携し、早期の解決に努めている点も評価できるところである。今後も、料金収納率の向上のため委託を継続していくこととする。

平成26年度【基本シート】

1.基本項目		作成部署	水道事務所		水道課	
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
6	管路図の電子化	平成 25 年	継続	自治事務(市独自)	直営	
	01	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課						
基本目標	4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	32	上水道	事業番号 7

2.事業の概要

事業内容	管路等の布設情報を電子化し、施工・管理業務の効率化を図ります。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	管路等の維持管理の効率化を図れる。
------	-------------------

4.活動指標

Plan【計画】	平成25年度(現況)	3か年計画		
		平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業内容 事業量等	管路情報システムの調査・検討	管路情報システムの調査・検討	管路情報システムの導入	管路情報システムの運用

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	21H	1人	45H	1人	12H	0人	0H
主事・主任職	0人	0H	0人	0H	1人	12H	1人	39H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	0	0	25,405	2,035
人件費(係長職)	107	226	61	0
人件費(主任・主事職)	0	0	44	142
総事業費(合計)	107	226	25,510	2,177
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	107	226	25,510	2,177
財源内訳(合計)	107	226	25,510	2,177

③コスト計算

ア 市民	56,732	人における1人あたりのコストは、	4	円
イ 対象者	56,622	人における1人あたりのコストは、	4	円
ウ 成果物		の 出来高		円

※対象者 給水区域内人口

Do【実行】 【進行管理】

6.実施結果(活動指標と投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

平成26年度は、情報化推進委員会に向けて、実際の業務状況を確認するため他の事業体の視察を行い、10月に情報化推進委員会に付議し、水道管路情報システムの導入を承認された。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	0	0	0	0	-

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
<ul style="list-style-type: none"> ・市役所関係部署との調整 ・システム事業者によるデモ 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報化推進委員会に付議し承認を得た。 ・予算化

②成果指標(目標値)を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check【評価】

8.評価

◎…適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○…適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	<ul style="list-style-type: none"> ・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか 	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	<ul style="list-style-type: none"> ・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか 	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の目標が達成されているか 	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		今後の方向性
高 [妥当性・有効性]		A
↑	高	
低	← [効率性]	
↓	低	

B:事業の進め方の改善の検討 A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当

C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討

③事務事業から導かれる今後の方向性と課題

評価(所管課長)
<p>現在、水道管路図情報は紙データで管理しており、管路図の更新は原図となるマイラー(フィルム原紙)を修正しているものであるが、マイラーの劣化が進み更新が限界に達している状況である。重要な情報資産の喪失につながる恐れがあり、情報を電子化し管理していく。</p> <p>平成26年度において関係部署と調整をはかり、平成27年度に同システムを構築するものであり、利便性や機能性を重視したシステム構築を行っていく。</p>